



海外 各國 誌聞新譯翻

許 官

東京神田富山町十五番地
本局 信報堂

第一二號

定價銀二匁五分

西垣文庫
文庫 10
7380
1



文庫10
7380
1

附言

外国の新書ハ事多端ニシテ日本に無用の事も有リ故ニ多くの中より
肝要のものを亞米加人ウヰンリド英吉利人ウヰルムスの撰ニシテ我國
行川一男翻譯を微細小向以度人ハ本弓へ来リ給へ

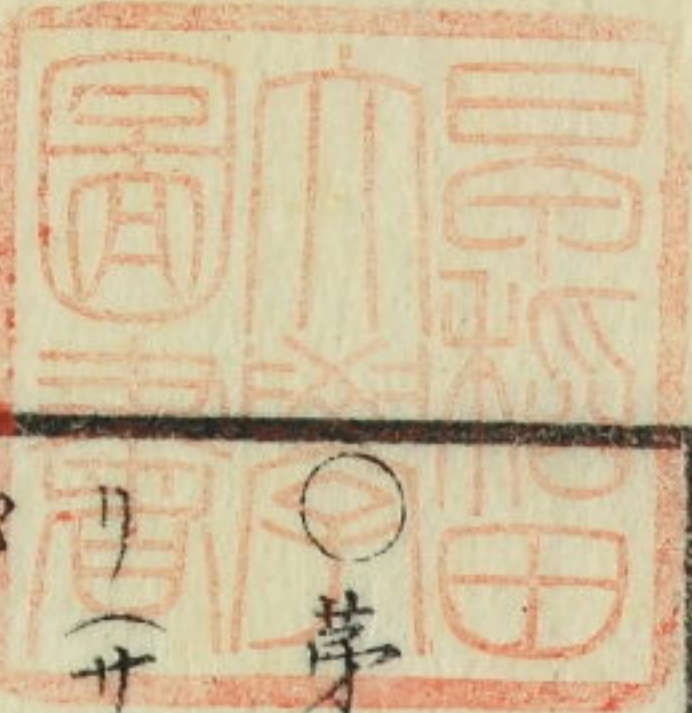
毎月廿板 日曜日

但一紙数ニ限リラレバ廿板の度一号ニ限ラバ文章の多
少より二号或ハ三号も同時ニ廿板
定價一冊 銀二匁五分 当時發行より先き前金と以テ引受の向ハ

二十部
三十部
五十部

銀四十五匁
同六十三匁
同百匁

西頭文庫



海外 翻譯新聞紙第二号 一月十九日發行

○第一号ニ記載セー(ロンドン)イギリスニ在リ(アメリカ人よ
リ)サンフランシスコ(カリフォルニア)都ヘ送りたる夜景の新書を爰ニ
再び述ス

また他の婦人三四人位ハ死互ひテ手と組ミ往還を大声ニ
哥を謡ふされ共この婦人ハ卑賤志きものゆへ只醉狂の
餘り此の如クにて別々恐るべき者ニ何れも貧究者
ゆへ金錢ハ互ニ貸し借りのたより其中間内を回轉せし事
烈志くして恰も羽翼を生せし如くなり此方の角々ハモツ
フトバスタ(是れハ芽を蒸キ器械にて其の形に似たり)にておやがたら

各體譯新聞紙 卷二

芋の類種々と蒸し南ふ此の火と焚く口々ハ是らの婦人元
 より身々纏ふ衣服十分あらざれば寒氣と凌ぐたりと集て
 去らば又彼方の角々ハ螺の貝焼の如き品々と煮てそれ
 酢と入れ一皿の價一（ヘンニ）日本ニ錢余 其傍ら小ハ鰻
 其外魚類を同トく煮て並べ置き人と集む是らの店前立
 定客たる者ハ別ニ所業もふく人の戸口の夜並に僱ハれ或
 ひハ人の灯火を持ち荷物と運び又ハ往還の掃除等を為て
 聊うの錢と得て其日と過す者なり我らの眼より見む時ハ
 其品何れも腐敗す近くして是を喰ふ者ハ自より病臥を求
 死を招くに至らん予思ふに假令開化の地ニ桂むと云ふ共

是者らハ下賤の極小して南海の嶋々住む土人よりも遠
 かるべし

此篇猶長けれバ餘ハ第三号ニ譲る

○西曆一千八百七十二年十一月二十九日（サンフランシスコ）
 カ都 新岁紙中ニ（パレスタインの國名）の高き（シヤベルア
 スドムと云ふ山ハ（パリ）スフランより出る石灰の如くその
 絶頂青白くして岩の如く小塊まり一面の塩山あり其山
 一方ハ北東一方ハ南西ニ廣がりて長さ凡七（マイル）一（マ
 十四）巾凡一（マイル）半高さ凡五百（フイート）一（フイート）日本
 町余 此山の麓ニ妻々穴あり人希く畜類過つて之ニ落る者

ハ再々び出ると見ゆ又其傍ハラより水の流れやで小川と
作し其水音涼々として海に落つるパレスタイン地より或
人の音信云く(シヤベルアストム山)よりやる塩ハ其塩の
氣薄さゆへ此の山より九十マイル東に當りて砂糖并び
藍麦の類を生ゆる豊饒の畑有りと云

○同年十月二十六日(ロンドン)の新聞紙中より千八百
七十年より同トク七十二年まで三ヶ年の間毎年十月の或
一週間(本七日)を食人の数と改めたる事を記せり
千八百七十年十月の同ト一週間を檢りりて食人の數十
五万九千五百四十五人ふりりて千八百七十一年十月の同

一週間を檢りりて其數十三万千八百八十六人とふり則ち二
万八千三百五十九人減少せりまた当十月中改められ八十
万一千五百六十七人とふる則ち二万九千六百十九人減少
せりふり此十萬一千五百六十七人の内三万三千三百九十
四人ハ家の内にて少の職業を営み残り六万八千七百七十
三人ハ戶外に在りて銘々其日と送れり此の如く追々減少
し已に当十月此週の終りの日(別ち十月二十六日)と云く食人の名と
免つれ平人と成りし者八百九十人なり内五百六十四人ハ男
二百六十三人ハ女七十二人ハ十六才以下の小児ふりと云
○同年十一月二十九日(サンフランシスコ)の新聞紙中

云く吾が國に於てハ陸地ニ蒸氣車水路ニ船之と以て國内の諸品を運送すべき免許を得たる人より年々政府へ上納する處ろの運上金ハ其括算常々國民より上納する處ろの年貢金ノ二倍也と云へり此の如く上納する運上金毫一も國民ニ益ふきと以て廢せしめんと欲せられども從來此の蒸氣車並ニ船へ拂ひ来る運賃ハ至當の賃錢あるを以て之を減少せしむる事能ハズ只宜しく國民其方角を從て會社を結び一個宛の鐵道を造り年貢等の諸品をして各自之を運送し以て政府に納る事を得るときハ無益の賃錢を拂ふ事なく又免許を得たる人も夫々從て運上金を納る事勿る

べし然るときハ則ち容易く此運上金を廢止する事を得べし一扱此鐵道建築の事も為し難きが如く且も能く注意して深く考へ究むるときハ亦容易に成就すべし一て必しも難き事非ざるあり曾て或る老實人の物語を聞くと國民若し實に鐵道を造らんと欲すれば一里毎に一万四千ドルラレ一(ドル)ラレ日の雜費にて十分の成就すべきふりと今や國本三分ニ朱余の雜費にて十分の成就すべきふりと今や國民より上納のたりに運送する處ろの雜費の類ハ先姑らく之を置き只鐵道と水路のより運送する處ろの小麦と以て算ふるに今年の如きハ已に五十万トニ一トニ日本二百七十=貫三百八十を運送せり此運賃一トニ毎に金五(ドル)ラレと拂ひ

ととさハ其惣數二百五十万(ドル)と及ぶべし此二百五十万(ドル)を以て鉄道と造る時ハ一百八十里の鉄道を建築し又構造の外に費する諸雜費等八種々の雜費を運送に拂ひては運賃と之を用ひふらば必しも不足勿らん之を由てこれと考ふれば只一年の收納に費する所の無益の金を以て一個の鉄道已成就すべし果して年々此の如く為す時ハ全国中鉄道影しく出来恰も蜘蛛の糸を張か如きに至らん然るに國民都て諸品運送免許を得て之を職業と為す人の手と脱離れ僅々の入費を以て穀類を運送せし小至らん云

○同一新文紙中云く(セルマン)帝國に於てハ婦女子を教授する学校の數大ひに増加せり元來政府より建てる所の女学校を支配する者ハ(アルベルト)侯の息女(ラロコ)ニ名と云ふ最も諸學に秀で鋭才の譽高き女侯の取立ふり此女侯或ハ自ら金と附与し以て造營しむる女学校を平本として之を模倣して造り設ける者亦れども(セルマン)人ハ官府の支配を以て建てる学校に入りて教授を受ける事を願はむ故に日を追て婦女子を教授すべき私塾を自分入用として盛んに建てしセルマンの南方に於てハ人々力次第自由を取建てる学校の旺んる行はるを以て會社と結べる商賈等官府に依

頼とを好まざり影だしく婦女修学の私塾を建てたり此の如く
 近來増加したる女学校ハ真誠有益の者あるや否やを
 知らざると虽ども之を外より見る時ハ其法正しくして規律
 も亦能く立ち実ニ有益なる者の如く爰ニ今一例を挙げて
 證とせんヲルテンベルジ地と云ふ於て一個の女学校
 の私塾有り盛んなる事實と珍らし其根元を尋ぬるに
 トリニビニ地此地一人の寡婦有り幼少き時或る女学校
 に入りて修学し居りて後其夫死去せしるに學校に在
 りて學び覺へし手技と以て其日を送る資けと爲し教人の
 幼女を養ひて縫裁の道或いは家内を治むる事等を習は

けるが数年して幼女何れも其道に達し獨り立て他の幼
 女と教へ導びくに至れり之由て他の幼女来り學ぶもの
 日々増し月々加はりければ近隣の家を借り塾と爲し今ハ
 其生徒教百人に及ぶ規律最も嚴正にして堂々たる大私塾
 と爲れり其内アメリカ洲より来り學ぶ高貴の息女兩人有
 実ニ盛んと云べし此私塾ハ則ち義塾にして塾の屋賃等ハ
 生徒より之を拂ふ事あり又ヲルテンベルジの町に住して
 此義塾を支配する人ありて物價の高低に從ひ其人々より
 年々具へ金等の設け有れば必ずしも不足の患ひなし此
 私塾に於て教授する科目ハ其人の好む小技へとも先づ局

と別けて兩個とふし其一の教官ハ大抵婦人にして人の妻
 妾たる者の為べき技術を教し即ち縫裁とふし莫大小
 造り縞布木綿糸と毛物を紡織又食物の調理葱餅の焼方
 のもかりげ紙を以て天井を張る壁と張術或ひハ柱と彩色し
 壁を摸し小を塗等の技を教ふ又一ヶ所於てハ前記科目より
 最も高尚こと教等として此教官ハ容易の者の當るべき
 非有名の学者も其職を勤むると更ニ羞み此局に於てハ
 普通の学を始し或ひハ郵便役所電信局等の秘密なる書
 籍類と講讀し其人の才能に従つて或ひハ木彫刻し寶石
 彫刻し又ハ粘土を以て模範を作り鑿を以て金銀銅鉄を

鑄む術等を練習せしむ其外有要なる技藝として一家と云
 一得べき術ハ盡く之を教授せしむ云
 ○同一新夕紙中ニ云く(スコット)と云へる人(タロベルグ)ル
 アメリカ北方と云地の西に於て八十里の廣き林を所持す
 其近接す諸山ニ赫色黒色等の熊甚だ多し又麓色の熊有り
 て(スコット)氏ハ十年未獵り得し処ろの熊四十二匹及
 べり其内十四匹と別ニ四匹の豹ハ昨年獵得りと云又麋鹿
 夥だしりり玄グ類りと獵りあるを以て近來其数大ひ減
 少せり鷓鴣鶉家兔の如き類ハ特ニ多しして獵人の為ニハ
 廣大の有益あり此(スコット)氏十二匹の獵犬を畜ひけるが

各處に...

其内是下で一匹も熊の為に殺されざるハホ一実々幸運也
 云べし又此地より南方に於て熊へよく多し其内鹿色の古
 き大熊一匹ありて十六年来ルシアンと云川の辺りよりウ
 キアと云へる地に漂泊し所々にて家猪家鹿とて家畜ひ
 置畜類を竊し喰ふ故に人々大いに困難り若し此古熊を獵
 り殺す人有らば百五十ドルの礼金をややべいと布告
 せしうば諸人之を捕て其賞金を受んと心を苦しめけれ共
 一回も未だ打ち出さず者ふし爰に於てスコット氏甚だ腦
 ひとつの隙を工夫し漸やく之に陥し入れえりども其古熊
 巧みに隙を脱け捕る事能ハき由てスコット氏益々精神を

疑りて捕獲へんとを頻りに企てりと云

○同し新報紙中「ウタ」国内の地にて従来守る処ろの宝教
 を断然瘵止せしより寺院ハ日を追て頓破零落し人民ハ宝
 教を敬ハる事と免れ已れが自由を取行ふ事を得政府も
 亦從て賞罰明らうし正しけれハ国風を一新し大いに旧教
 と脱し歩と文明の域に進むと云

○同年十一月十九日(サンフランシスコ)カリフォルニア新報紙中
 「三バダ」内の地に於て富饒なる金坑の新發明を記載して云
 二月頃三バダの内ウードと云ふ地の近辺にスキットと
 云へる人有り夥たしく葡萄を植へ以て葡萄酒を製せんと

ま(フレスコット)と云ふ人の所持する原野を購ひ求む之を
 葡萄酒とふさん為め兄弟の子と携へ此原野を開拓し土を
 堀る。二フイート半前まで至りて白き色の石中より金を含
 む有るを見せり由つて深く土を掘りけれハ遂に一個の
 金脈を達し價ひ百(トル)ラブル餘の金塊を得たり夫より
 次第に土を掘るに再び兄弟ハ二百二十(トル)ラブル餘(スキ
 ット)ハ五百(ドル)ラブルを價ひべき金塊を得たり之を由
 て益々盛んに金坑を掘り石塊十五(ト)ニ前まで運び出して
 其内に含る有る金を取りし石塊一トニ毎に一千百(ドル)
 ラブルに當るべき金質を含めり此辺の石塊を昔(ス)タイル

と云ふ地の製造局にて試みるに曾て金を含る有らざりし
 故に金質有るを知らずふりしと近日此石塊を碎きて
 一(ト)ニ毎の石中より五十(ドル)ラブル餘の金を得又硫黄を含む
 石中より二百(四)トルラブルの金質を得たり此地の金脈ハ
 厚さ三四(フイート)前まで其中に廣さ三四(インチ)餘の帯の如き線條有り是れ全く金質の如ふりと云此金坑
 富饒なる好発明にして午時已に二千(トル)ラブル以上の金を
 を得たれハ時日を過さばして必き数万の金を得る小在る
 べしと云

○同年十一月二十九日(サニフランシスコ)前新聞紙中
(テハマ)内^の地^の鉄道^近近^に於^て石炭山^を見^やど^せ一^が此
石炭脈^の廣^さハ(フイード)前^に過^きたり此石炭^を燃^し一^試
一^を甚^だ精^好の品^{なり}と云

○同ト新^文紙中(ワニント)カ^メリ^の地^に於^てビスアツ
ポイントメント)と云ふ岬^に有^り一^燈臺^破損^せ一^マより近
来^一層^廣大^華麗^{ふる}者^を再^建せ^と云

